

「紹介で広がるワクワク楽しい漢字教室」

優秀賞



東京都 漢字教育士
植木ゆりこ

この度は漢字教育士として励みとなる賞を戴きありがとうございます。

私は、平日は会社員、週末は小学校の児童および保護者を対象に、ボランティアで漢字教室を開講しております。漢字に親しんでもらうため、時間の1/3が漢字ゲームです。平日の夜はゲームの小道具作り等に大忙しですが、時間を作ることが難しい時期もあり、「仕事と漢字教育士の活動の両立は無理なのかな……。」と少し弱気になっておりました。

今回の受賞で、疲れも迷いも吹き飛びました。子ども達の、「先生！ 今日は何の漢字？何のゲーム？」に笑顔で応じるべく、更に頑張ります！

1 実践の概要

平成24年から年間25回程度、小学校低学年とその保護者を対象とした漢字教室を東京都内各所で開講している。漢字を学び始めたばかりの小学校低学年の児童を対象とした指導法、教材、漢字ゲームを開発し、漢字を意味ごとにパーツとして分解する習慣をつけ、新しく出合う漢字にワクワクする子ども達を育てている。

2 実践の内容

小学校低学年の子ども達とその保護者を対象に、興味深い教材やゲームを数多く考案し、アイデアや工夫に富んだ実践を行っている。

(実践例1)「画数足し算ゲーム」

漢字を記した紙エプロンを参加者全員が身に付けて、出題された総画数になるように相手を探し、ペアになる。

(実践例2)「落ち葉拾いゲーム」

2チーム以上に分かれ対戦する。部屋の中央に置かれた、丸めてある紙を「よーいどん！」で1人3個ずつ拾い、それに書かれた漢字を使って、チーム内で熟語作りをする。

(実践例3)「うちの子の好物ゲーム」

親子10組で行う。出題者は保護者で、1年生の配当漢字を使った食べ物をホワイトボードに書き、子どもが解答する。ヒントなしで解答すると3点、ヒントをもらい解答すると2点、解答できない場合は、他の子どもに解答権が移る。



3 実践の成果

漢字の成り立ちを知ることで、子ども達は漢字を丸暗記するのではなく、想像力や推理力をフル回転させて漢字に接するようになった。学年配当の枠をこえて関連漢字をまとめて学習する指導方針により、未習漢字の学習の際も、「まだ習ってない」「わかんない」といった声ではなく、「もっと難しい漢字教えて！」「もっといっぱい教えて！」という声が出るようになった。また、ハンディーサイズのホワイトボードの活用などにより、漢字学習が孤独にひたすら書き続けるものから、一画一画大きく元気に、さらに自発的に取り組むものとなり、その学習法は地元の小学校でも取り入れられるなど、学校教育へも発展を見せている。